

GOLD



"Don't Ignore COPD"



World
COPD
Day
2004

November 17, 2004

..... GLOBAL INITIATIVE FOR CHRONIC OBSTRUCTIVE LUNG DISEASE

The GOLD program is conducted in collaboration with the US National Heart, Lung and Blood Institute, NIH.

Chair:

Romain Pauwels, MD, PhD

Director:

Claude Lenfant, MD (NHLBI)

Scientific Director:

Suzanne Hurd, PhD (MCR)

Coordinator:

Lawrence Grouse, MD, PhD

Executive Committee:

Romain Pauwels, MD, PhD, *Chair*

A. Sonia Buist, MD

Peter Calverley, MD

Bartolome R. Celli, MD

Leonardo Fabbri, MD

Yoshinosuke Fukuchi, MD

Christine Jenkins, MD

Juan Luna, MD

William MacNee, MD

Ewa Nizankowska-Mogilnicka, MD

Klaus F. Rabe, MD, PhD

Roberto Rodriguez-Roisin, MD

Nan-Shan Zhong, MD

Science Committee:

Leonardo Fabbri, MD, *Chair*

A. Sonia Buist, MD

Yoshinosuke Fukuchi, MD

William MacNee, MD

Romain Pauwels, MD, PhD

Klaus F. Rabe, MD, PhD

Roberto Rodriguez-Roisin, MD

Jan Zielinski, MD

Dissemination Committee:

Christine Jenkins, MD, *Chair*

Sabina Antoniu, MD

Peter Calverley, MD

Bartolome R. Celli, MD

Juan Luna, MD

Thys van der Molen, MD

Ewa Nizankowska-Mogilnicka, MD

Michael Plitt, MD

Ian Town, MD

Nan-Shan Zhong, MD

GOLD Home Page:

<http://www.goldcopd.com>

世界COPDデー推進日本大会2004

主催 世界COPDデー日本委員会

共催 アストラゼネカ株式会社／グラクソ・スミスクライン株式会社／日研化学株式会社／日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社／バイエル薬品株式会社／ファイザー株式会社／三菱ウェルファーマ株式会社

協賛 アボットジャパン株式会社／大塚製薬株式会社／帝人ファーマ株式会社

協力 チェスト株式会社

後援 東京都／日本医師会／日本呼吸器学会／日本呼吸管理学会

世界COPDデー推進日本大会 メディアフォーラム速報



The Global Initiative for Chronic Obstructive Lung Disease

見過ごさないで、COPD

—世界の死亡原因第4位のCOPDは、予防でき、治療できる病気です—

世界COPDデーは、COPD(慢性閉塞性肺疾患)の研究と啓発に力を注ぐ世界的な組織GOLD(Global Initiative for Chronic Obstructive Lung Disease)の主唱のもとに2002年に制定された。

現在、COPDは世界的に主要な死亡原因の1つでありながら、社会的な認知が充分とは言えない疾患である。COPD問題への適切な対応のために、医学界、専門医、患者団体などが協力してCOPD疾病啓発に向けたさまざまな活動を行うことが、世界COPDデーの主旨となっている。

2004年の世界COPDデーは11月17日(水)で、この日を中心に、世界各国でさまざまな啓発イベントが実施された。日本では11月10・11日に世界COPDデー推進日本大会が開催され、「見過ごさないで、COPD」をテーマに一般市民向けのCOPDチェックイベント、報道関係者向け「メディアフォーラム」が行われた。今年は、社会的な疾病啓発に向けてさまざまな取り組みも始まり、世界COPDデー推進日本大会は各方面から注目される大きなイベントとなった。

開催日:2004年11月10・11日

11月17日は第3回世界COPDデー

■ 基調講演

COPDの治療、最近の進歩



世界COPDデー日本委員会委員長
順天堂大学医学部呼吸器内科教授
福地義之助先生

COPDの早期診断・早期治療・予防をより広く社会に訴えることを目的として、今年より世界COPDデー日本委員会が発足した。また、日本呼吸器疾患患者団体連合会が発足するなどCOPD疾病啓発と患者サポートの取り組みも活発化している。世界COPDデー日本委員会委員長でもある福地先生は、これを機会に、「COPDは予防でき、治療できる病気」という重要なメッセージを広く社会に訴えたいと語った。

COPDは「治療できる病気」

福地先生はまず、GOLDの活動、世界COPDデー日本委員会の果たす役割などについて説明したのち、2004年4月に出版された日本呼吸器学会のCOPDガイドライン第2版の内容を中心に、COPD治療の進歩について講演した。

COPDは、有毒な粒子やガスの吸入によって生じた肺の炎症反応に基づく(図1)進行性の気流制限を有する疾患である。この気流制限にはさまざまな程度の可逆性が認められる(図2)。また、発症と経過が緩やかで長い時期を経て、労作性呼吸困難を生じるのが特徴で、診断ではスパイロ検査が重要となり、1秒率70%未満なら気流制限ありとされる。新しいガイドラインでは「完全には可逆的でない」というGOLDの表現を「さまざまな程度の可逆性が認められる」とポジティブに捉え直していることが特徴であり、COPDは治療できる病気であるからこそ、早期診断、早期改善が重要であることを強調した。

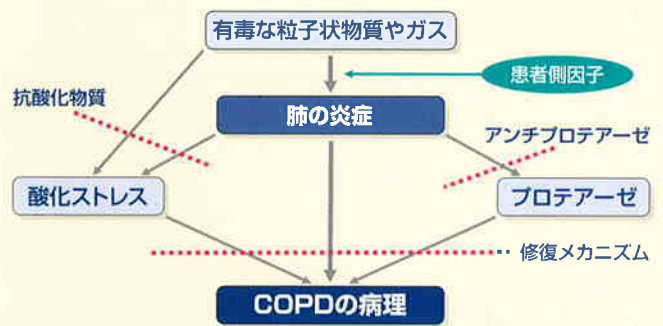
未診断、未治療の患者が多いCOPD

次に福地先生は、世界的に重大な疾病であるにもかかわらず、未診断・未治療が多いというCOPDの問題を取り上げた。

COPDの原因は、 $\alpha 1$ アンチトリプシン欠損症などの遺伝因子、外的要因としては喫煙、大気汚染などが挙げられるが、特に喫煙はCOPDの発症リスクの80~90%を占める。COPDの2000年の死亡者数は世界で274万人、2020年には世界の死亡原因の第3位になると予測されており、人類全体にとって非常に重大な病気である。日本では現在、死亡原因の第10位だが、男女ともにCOPD死は増加している(図3)。しかも、疫学調査によれば推計患者数は530万人以上、95%以上が未診断、または他の疾患と誤って診断されていると考えられる(図4)。直接医療コストは重症度が高いほど増加するので、重症者が増えると社会経済負担が大きくなる。したがってCOPDの早期発見、進行予防は医療費低減の決め手でもあり、国民全体の問題であることを福地先生は強調した。

図1 COPDの発症メカニズム

プロテアーゼ・アンチプロテアーゼ不均衡とオキシダント・アンチオキシダント不均衡はCOPDの病因を説明する中心的な仮説である。

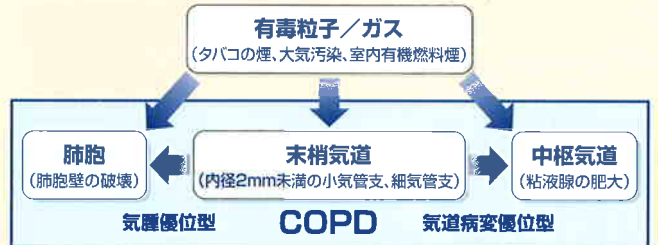


(日本呼吸器学会 COPDガイドライン第2版、図はGOLDガイドラインより引用)

図2 COPDの定義

Chronic (慢性) Obstructive (閉塞性) Pulmonary (肺) Disease (疾患)

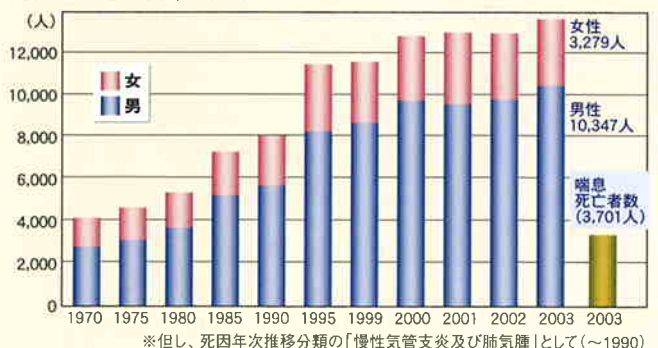
COPDとは有毒な粒子やガスの吸入によって生じた肺の炎症反応に基づく進行性の気流制限を有する疾患である。この気流制限にはさまざまな程度の可逆性を認め、発症と経過が緩徐であり、労作性呼吸困難を生じる。



(日本呼吸器学会 COPDガイドライン第2版)

図3 日本では死亡原因の第10位

2003年のCOPDによる死亡者数は13,626人、男性では死亡原因の第8位



(厚生労働省人口動態統計)

COPDは全身性疾患として捉え 積極的な治療が必要

COPDは呼吸器だけでなく全身性の疾患であり、進行すると循環器系の合併症を起こすだけでなく、早い時期から骨量の減少や、骨格筋の退縮、動脈硬化の進展などが認められる。COPDの炎症を治す根本的な薬は見られていないが、症状を緩和し、QOLを改善する治療法は確立されている。福地先生は、日本でも長時間作用型気管支拡張薬が使用できるようになったことを示し「治療できる病気との理解をより深めていきたい」と述べた(図5)。

また、5月には日本呼吸器疾患患者団体連合会、7月には世界COPDデー日本委員会が発足し、現在、在宅呼吸ケア白書を作成中など、患者サポートや啓蒙への取り組みも進んでいることが紹介された。

最後に、福地先生は、COPD1000人アンケートを取り上げ、その結果について、COPDを広く知らしめるためにはテレビの力が大きいと、正しい理解を促すという意味からは、新聞や雑誌など活字メディアの果たす役割が大きいと述べた(図6)。そ

図5 治療に関するエビデンスの集積



(日本呼吸器学会 COPDガイドライン第2版)

して、今後も、メディアの協力を得ながら「COPDは予防でき、治療できる病気。禁煙や治療は早ければ早いほどよい。おかしいと思ったら速やかに呼吸器専門医に相談を」というメッセージを社会に向けて送り続けたいと基調講演を締めくくった。

図4 未診断、未治療の患者が多い

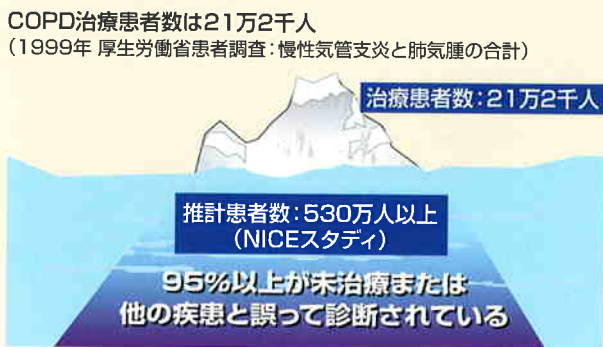
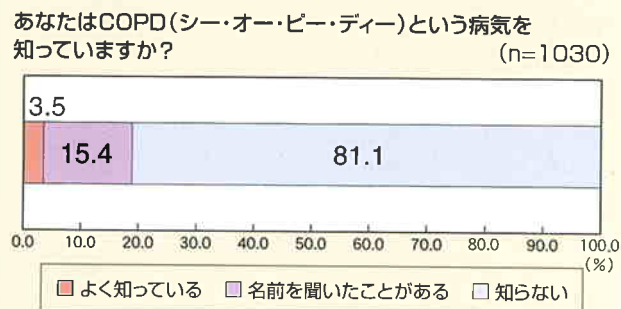


図6 COPDの認知率: 5人に1人は「名前を聞いたことがある」



特別発言

COPD研究にも貢献する、米国患者団体の活動を報告



米国患者団体AlphaNet会長
John W Walsh氏

Walsh氏はα1アンチトリプシン欠損症で、40歳でCOPDを発症した。まず米国の現状として、COPD患者は1500万人以上、150億ドルの直接医療費がかかり、社会全体の疾病負荷として重大な問題となっていることを紹介した。

米国では、84以上のCOPD関連団体の連合組織があり、患者、介護者、医療関係者およびメディアのCOPDに対する認識向上や、早期発見とQOL向上に取り組み、COPDの発症機序や治療、予防法を探る研究促進などを通じて「米国人の自由な呼吸」を支援している。AlphaNetでは、患者や家族に向け

て包括的なサポートを提供し、その収益はすべて研究に還元しているという。

さらに、Walsh氏は、日本では福地教授のリーダーシップのもと、効果的な取り組みが進んでいることを賞賛し、さらに世界のCOPD患者団体連合を発展させ、COPD患者の健康の問題に取り組みたいと述べた。すべての医療機関でGOLDガイドラインが活用されることや、患者および医療従事者向けの教育資料の普及が重要であり、患者だけでなくすべての人々がCOPDを自分たちの問題として捉えるべきだと訴えた。

Case Study: a model for US COPD

